

「郡道」をゆく（続）

2月27日に「腰痛と鍼灸院」をレポートした。瑞穂区下坂町の鍼灸院に通い始めたことを書いた。地下鉄・堀田から歩いたが、途中で道を間違えてしまった。同じような道が何本も並んでいて迷ったようだ。

そんな道のひとつが「郡道」であることを知った。この地域に長く暮らす人たちは、いまも「郡道」と呼んでいるようである。写真は鍼灸院あたりで撮った「郡道」であり、上は堀田の方で遠くに名鉄の高架が見える。下は北に向かって滝子・御器所の方だ。

先日、治療後に思い切って滝子に向けて「郡道」を歩いた。鍼灸で温まった腰のせいか、いつもより快調に歩くことができた。大喜町、豆田町などの町名を見ながら、とにかく真っすぐ進んだ。神社なども見えたが、寄り道せず歩き続けた。滝子キャンパスには、意外に早く20数分で着いた。

この「郡道」に昔は市バスも走っていたというが、途中かなり狭い道もあった。バスが走る当時の写真を見たいものだ。いま「郡道」は環状線と空港線という幹線道路の中ほどにある、地域を結ぶ生活道路として利用されている。下町情緒ある街並みも多く、歩いていてもあまり疲れを感じなかった。

「郡道」の南端は呼続（よびつぎ）である。『なごやの地名』によれば、呼続は呼続浜という古名にちなむといわれる。この一帯は地形的には笠寺台地上にあり、奈良・平安期には、海に囲まれた島あるいは島に近い半島であった。北端は古井ノ坂だ。「恋の坂」ではなく江戸期の「古井村」の坂である。古井ノ坂は、このあたりを通る飯田街道が城下に向かって緩い下り坂となっていたことからの命名といわれる。

飯田街道や古井ノ坂には、古くから馴染みがある。2006年6月5日のレポートにも書いたが、私の生まれ育ったのは千種本町1丁目の「鉄道官舎」であった。木造2階建ての細長い建物であった。官舎の前に飯田街道が通っており、すこし上ると古井ノ坂である。飯田街道は尾張名古屋と信州飯田を結ぶ歴史ある街道だ。飯田街道沿いの商店街が懐かしい。4年まで通った千種小学校は、古井ノ坂から近いところにあった。

今回レポートを書きながら、「郡道」の北端が古井ノ坂であることに注目した。その「郡道」は滝子、そして「ウェルネスはやし鍼灸院」前を通り呼続まで続く。京ちゃんとは、なんと郡道でも「ぐん」と長くつながっていたことになる。

(2015年3月19日)

